

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02686

研究課題名(和文) 教育の交流と東アジア国際関係—中国人留学生の派遣と交流

研究課題名(英文) Educational Exchange and East Asian International Relations-Dispatch and Exchange of Chinese Students

研究代表者

孫 安石 (SON, ANSUK)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：30321954

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国人留学生を日・中の教育交流史の重要なアクターとして位置づけ、日本における優れた研究蓄積を中国語圏に発信していくことを目的とするものであった。

その成果として、中国の遼寧師範大学、南開大学、江蘇師範大学、日本の神奈川大学、台湾大学にて開催された国際会議に参加し、日本側の研究成果を国内・外の研究者に紹介し、これら国際会議で発表された論考は、論文集『中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」』（東方書店、2019年3月）として出版された。また、日本で実施した東京大学文書館、京都大学文書館、東北大学資料館の調査では、旧制高校関連の未発掘資料が保存されていることを発見できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本共同研究のメンバーが中国、台湾、日本において開催された各種国際会議に参加し、日本側の優れた研究成果を中国語圏に発信し、これらの報告を集めた論文集『中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」』（東方書店、2019年3月）を出版し、同論文集の中国語版（中国社会科学院出版社）の出版が準備されていることは、研究成果の社会還元、国際貢献という点から社会的意義は極めて高い。

また、日本で実施した東京大学文書館、京都大学文書館、東北大学資料館の調査では、旧制高校関連の未発掘資料が保存されていることを発見できたことは、今後の同分野の研究における大きな学術的な寄与であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to position Chinese students as an important role in the history of educational exchanges between Japan and China, and to disseminate outstanding Japanese research results to countries in the Chinese-speaking Country. As a result, we participated in international conferences held at Liaoning Normal University, Nankai University, Jiangsu Normal University, Taiwan and Kanagawa University in Japan, and introduced the research results of Japan to international and domestic researchers.

The articles published at these international conferences were published in the proceedings <Chinese students and the "country", "Patriotic", "Modern"> (Toho-shoten, March 2019). In addition, a survey conducted at the Archives of the University of Tokyo, the Archives of Kyoto University and the Archives of Tohoku University in Japan found that unexcavated materials related to old high schools were retained.

研究分野：日中関係史

キーワード：中国人留学生 日中関係

1. 研究開始当初の背景

中国人留学生に関する研究は、従来、日・中関係史の重要な研究分野の一つとして認められ、戦前から多くの研究蓄積がある。本研究の主なメンバーである孫安石と大里浩秋は、これら先行研究者らが積み上げてきた日本と中国の留学生史研究を継承・発展すべく、今まで①大里浩秋・孫安石編『中国人日本留学生史研究の現段階』（御茶の水書房、2002年）、②大里浩秋・孫安石編『留学生派遣から見た近代日中関係史』（御茶の水書房、2009年）、③大里浩秋・孫安石編『近現代中国人日本留学生の諸相』（御茶の水書房、2014年）という三冊の論文集を刊行し、主に明治期から昭和前期に至るまでの中国人留学生の活動の一端を明らかにすることができた。

しかしながら、新たな資料の発掘（日本外務省外交史料館、中華民国教育部、東京大学、京都大学、東北大学、東京都立図書館などの所蔵）により新たな課題が浮かび上がり、科研「教育の交流と東アジア国際関係—中国人留学生の派遣と交流」という共同研究を立ち上げることにした。

2. 研究の目的

本研究は、中国人留学生を日・中の教育交流史の重要なアクターとして位置づけ、明治以来の中国人留学生と日本との関係を「教育」の交流という視点から捉えなおすことで、日中間の人的往来がもたらしてきた正負の遺産を明らかにするとともに、日本における研究蓄積を中国語圏に発信していくことで、東アジアの高等教育研究の交流を実現することを目的とする。

3. 研究の方法

研究の具体的方法としては

(1) 日本側の外務省外交史料館と清朝の中国人留学生監督処、中華民国教育部などに含まれている中国人留学生関係の各種資料を比較検討し、留学生と教育交流がどのように展開されたのかを考える複合的視座を確保する。

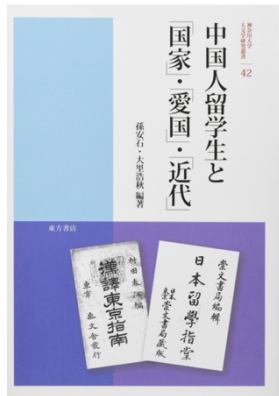
(2) 東京都立図書館と日本側の各学校（東京大学、京都大学、東北大学など）に含まれている資料を再検討し、終戦前後に解散、改編を迫られた留学生支援団体の実態を明らかにする。

(3) 米国、中国、台湾、日本などで開催される国際シンポジウムに参加し、日本側の優れた研究業績を紹介し、問題意識を共有できる研究インフラを構築する。また、中国語の論文集を刊行（中国社会科学院出版社）し、日本側の著作を翻訳し、中国側にも紹介する。

4. 研究成果

(1) 本共同研究による海外の学会の参加の成果として、2017年には中国の大連と天津にて開催された国際シンポジウムに参加し、2018年には、中国の江蘇師範大学と神奈川大学にて国際円卓会議「日中関係史研究を考える」を開催し、2019年には、台湾で開催された国際シンポジウム「東アジア日本研究者協議会第4回大会」に参加し、日本側の優れた研究成果を欧米と中国、台湾の研究者に紹介することができた。

(2) 上記(1)の各種シンポジウムで発表された論考は、孫安石・大里浩秋編著『中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」』（東方書店、2019年3月）として刊行することができた。



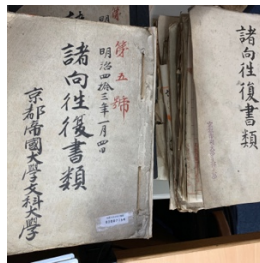
| | |
|---|--------|
| 第I部 中国人留学生と「国家」の発見 | |
| 清国留学生会館研究初探 —「国家」と「愛国」のはざま | —孫安石 |
| 清末中国人日本留学生の初期活動について —勤志会と訳書業編輯社を中心に | —郭夢逸 |
| 中国人留学生の日記から読み取る日常生活 —下宿屋という都市空間を中心に | —樂殿武 |
| 第II部 中国人留学生と文学—「愛国」を求めて | |
| 余計者としての留日学生 —張貫守「一班冗員の生活」を中心に | —林麗輝 |
| 留学と愛国、そして詩 —周大奇と鄭伯奇、柳木天 | —熊捷 |
| 中国人留学生が語る「日本」 —柳道夫「帰航」とイギリス排日小説『キモノ』(Kimono) | —中村みどり |
| 中華学芸社とその機関誌『学芸』について | —潘吉培 |
| 第III部 戦争と混乱の狭間でみた「近代」 | |
| 「滿州国留日学生会」の結活動とその実相 | —見城敏治 |
| 「対支文化事業」における「特別講習会」 —東京帝国大学農学部を事例を中心に | —三村謙也 |
| 一九五〇年代半ばの中国留日学生と日本国費留学制度再開 | —川島真 |
| 一九五〇、六〇年代の中国留日同学会と華僑社会 —陳学全さんに聞く | —大里浩秋 |

現在、この論文集の中国語訳（初稿）を完了し、中国社会科学院出版社（北京）からの出版に向けた申請を行っている。

(3) 日本国内の調査としては、東京大学文書館、京都大学文書館、東北大学資料館が所蔵する明治から昭和に至る中国人留学生と日中関係に関する調査を実施したが、まだ、未発掘の資料群が数多く保存されていることを確認できた。



(東北大学資料館)



(京都大学文書館)

特に、旧制高校の第一・二・三高に、明治時期の中国人留学生に関連する資料が大量に保存されていることを発見できたことは今回の共同研究では予期していなかったことである。今後、これらの資料調査を更に進めて行かなければならない。

今回の共同研究では、欧米の研究者との交流のための2020年2月にはボストンで開催される Association for Asian Studies の例会へ参加することを計画していたが新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができなかつたため、今後の課題とせざるを得ない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1. 著者名 王雪萍 | 4. 巻 61 |
| 2. 論文標題 『神州学人』誌から見る中国の留学生政策の変容 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 人文学研究所報 | 6. 最初と最後の頁 97～104 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 3件/うち国際学会 9件）

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 孫安石 |
| 2. 発表標題 清国留学生会館研究初探 |
| 3. 学会等名 江蘇師範大学（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-------------------------|
| 1. 発表者名 見城悌治 |
| 2. 発表標題 満洲国留学生の研究 |
| 3. 学会等名 江蘇師範大学（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 中村みどり |
| 2. 発表標題 中国人留学生と日本の文学 |
| 3. 学会等名 江蘇師範大学（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 大里浩秋 |
| 2. 発表標題 日中関係と留日学生研究 |
| 3. 学会等名 東亜教育交流視野下的中日留学生史研究・国際論壇会議（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 見城悌治 |
| 2. 発表標題 満州国留日学生の日本認識 |
| 3. 学会等名 東亜教育交流視野下的中日留学生史研究・国際論壇会議（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 孫安石 |
| 2. 発表標題 広東省留日学生相關の資料紹介 |
| 3. 学会等名 東亜教育交流視野下的中日留学生史研究・国際論壇会議（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 周一川 |
| 2. 発表標題 近年来中国近代留日女学生研究概况 |
| 3. 学会等名 東亜教育交流視野下的中日留学生史研究・国際論壇会議（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 見城悌治 |
| 2. 発表標題 中国医薬学留学生と近代日本-千葉医専、医大卒業生を中心に |
| 3. 学会等名 留学生と中外文化・国際学術会議（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 周一川 |
| 2. 発表標題 民国時期留日学生統計資料分析 - 日華学会留学生名簿の史料価値 |
| 3. 学会等名 留学生と中外文化・国際学術会議（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 大里浩秋 |
| 2. 発表標題 東亜同文書院の研究と日中関係 |
| 3. 学会等名 中国人留学生史研究会第54回拡大例会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 川島真 |
| 2. 発表標題 コメンテーター |
| 3. 学会等名 中国人留学生史研究会第54回拡大例会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 王雪萍 |
| 2. 発表標題 中国の「一帯一路」構想と国際教育交流政策の変化：国家と個人のはざまに生きる留学生 |
| 3. 学会等名 第58回例会「中国人留学生が直面した諸問題について」 |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 孫安石 大里浩秋 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 東方書店 | 5. 総ページ数 346 |
| 3. 書名 『中国人留学生と「国家」・「近代」・「愛国」』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| <p>中国人留学生史研究会-Chinese Overseas Student's Study Groups http://chineseovers.jugem.jp/</p> |
|--|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 周 一川 (Zhou Yichuan) (00303008) | 日本大学・理工学部・教授 (32665) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-----------------------------------|----|
| 研究分担者 | 見城 悌治 (Kenjo Teiji) (10282493) | 千葉大学・国際教養学部・准教授 (12501) | |
| 研究分担者 | 王 雪萍 (Wang Xueping) (10439234) | 東洋大学・社会学部・准教授 (32663) | |
| 研究分担者 | 大里 浩秋 (OSATO Hiroaki) (70221124) | 神奈川大学・外国語学部・名誉教授 (32702) | |
| 研究分担者 | 川島 真 (Kawashima Shin) (90301861) | 東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601) | |